

令和8年度 長野県須坂高等学校 入学式式辞

春を心待ちにした花々が一斉に咲き、まさに春爛漫の季節となりました。

この佳き日に、来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和八年度長野県須坂高等学校入学式を挙行できますことに、厚く御礼を申し上げます。

保護者の皆様、これまで深い愛情をもって支え、育ててこられたお子様のご入学、教職員一同、心よりお祝い申し上げます。義務教育を終えて晴れの高校入学を迎え、感慨もひとしおかと拝察いたします。お子様が充実した高校生活を送り、豊かな個性と可能性を十分にのばし、ひとりの人間として大きく成長するよう、教職員一同、全力を尽くしてまいります。皆様におかれましても、よりよい学校を創るパートナーとして、学校と共にお子様を支えていただきますようお願い申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました246名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心より歓迎いたします。

本校は、大正十二年、地域の熱烈な要望により、長野県上高井中学校として創立以来、ここ須高の地に根を張り、学問と人間形成を大切にしながら歩んできました。その精神を端的に表す言葉が、「熱・意気・ガリ」の「臥竜魂」です。

臥竜とは、力を秘め、静かに学び、時を待つ竜の姿を意味します。自身の中に力を蓄え、やがて社会に出て大きく羽ばたく——その志が、須坂高等学校の学びの根幹にあります。今日から皆さんも、この臥竜魂を受け継ぐ一員です。

私たちを取り巻く世界に目を向けると、戦争、貧困、人権、環境といった様々な問題があります。現在世界で起きている対立は私たちの生活にも影を落としています。私たちは、世界や社会の諸問題を自分事としてしっかり考え、自分たちが生きる時代のみならず、その後続く時代も幸せであるために、常に自ら学ぶ努力をし続けなければなりません。

国や文化、立場や価値観の違い、情報の偏りなどにより、人々の間に深い断絶が生まれる、まさに分断の世界とも言える時代です。このような時代にあって、皆さんにぜひ身に付けてほしい力があります。

それはまず、真理を追究する力です。世の中には、断片的な情報や、一方的な意見があふれています。物事をうのみにせず、「何が事実なのか」「なぜそのような出来事が

起きているのか」と立ち止まり、疑問に思うこと、関心のあることに、自分の足で赴き、自分の五感をフルに使って確かめ、自ら考え、そしてまだなお問い続ける姿勢が何より重要です。

次に大切なのは、他者を理解しようとする力です。紛争や対立の背景には、歴史や文化、複雑な事情があります。異なる立場や考えに耳を傾け、想像する力こそが、分断を乗り越える第一歩となります。

そして、自ら行動する力です。正解がすぐに見つからない時代だからこそ、多様な人との対話を通じて、自分なりの考えを持ち、小さな一歩を踏み出す勇気が求められます。独りよがりにならず、小さくまともにはいけません。失敗を恐れず、学び続けましょう。

学問とは、答えを暗記することではなく、真理に近づこうとする不断の営みです。これら身に付けて欲しい3つの力を、日々の授業や部活動、学校行事や日々の活動を通じて、育てて欲しいと思います。

さて、ご存じのように本校には校則がありません。これは単なる放任ではありません。須坂高校の自由は単に与えられるものではなく、自らの選択と努力によって自由を獲得し、互いの尊厳を認め合うことで自由を保障し、そして自分を律することで初めて成熟する――そのような自由です。自由には責任が伴うことも心に留め、先輩たちが守り続けた「自由」の意味をしっかりと考えていく必要があります。

高校三年間は、ひとりの大人として今の時代を生きていくための大切な準備期間です。須坂高校が大切にしてきたこれらの学びや姿勢を胸に、臥竜としての力を蓄え、やがて社会に貢献する存在へと成長していくことを、私たちは心から期待しています。

新入生の皆さんのこれから始まる高校生活が希望にあふれ、充実した日々となることを心より願い、式辞といたします。

令和8年4月7日 長野県須坂高等学校長 弓削 弥生